

# 道路交通の現状と課題

## ○国道121号の現状

- ・ 交通の状況 . . . . . 4
- ・ 自然の状況 . . . . . 5

## ○国道121号の課題

### 【自然災害への脆弱性】

- ・ 自然災害による過去の通行規制 . . . . . 6
- ・ 落石による被災事例 . . . . . 7
- ・ H27 関東・東北豪雨被災状況 . . . . . 8
- ・ 防災点検結果 . . . . . 9

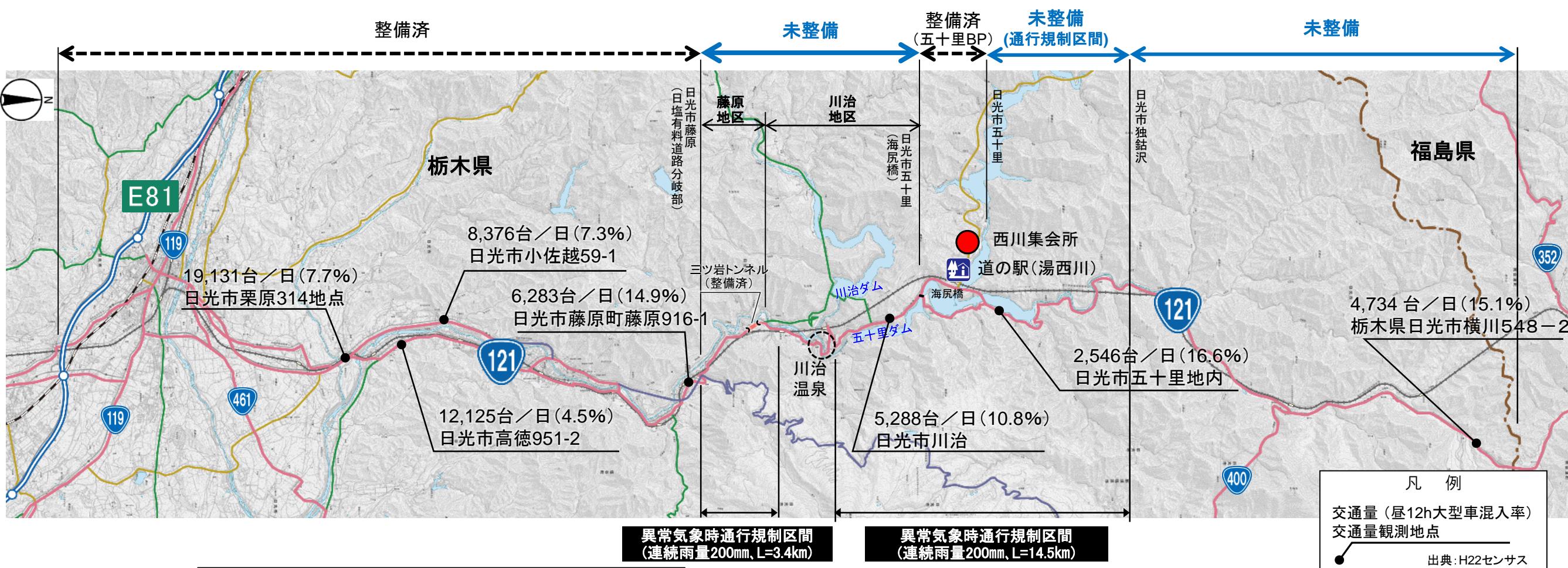
### 【走行性】

- ・ 道路線形の現状と課題 . . . . . 10

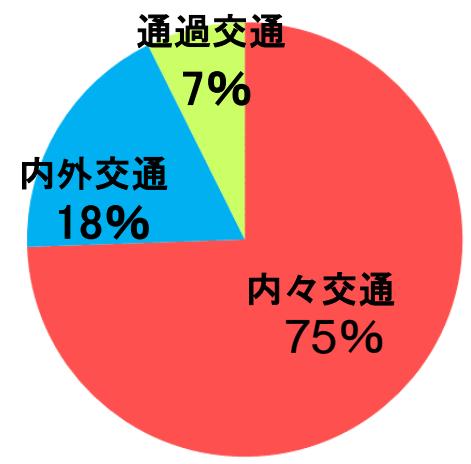
### 【安全性】

- ・ 川治温泉街の交通安全の現状と課題 . . . . . 11

■ 整備済区間については約2万台(現道+バイパス)、藤原地区・川治地区については約5千~6千台、川治地区以北については約2.5千台の交通があり、大型車混入率は約10%程度となっている。



## 国道121号の交通特性について

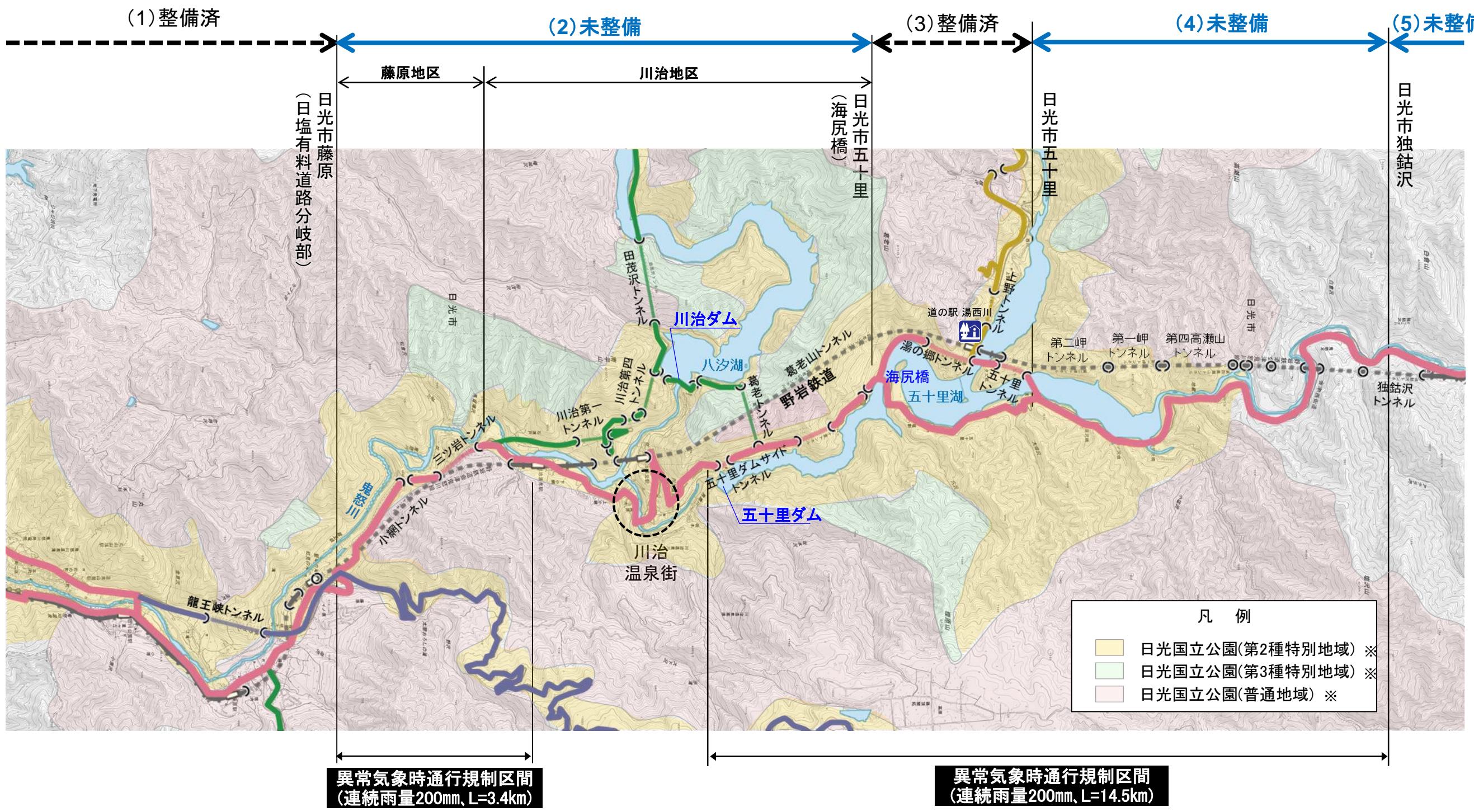


内々交通: 日光市内  
 内外交通: 日光市内から日光市外を行き来する交通  
 通過交通: 日光市内を通過する交通

H17道路交通センサス現況OD調査結果を基に算出  
 検討断面は国道121号日光市川治地区

凡例  
 交通量(昼12h大型車混入率)  
 交通量観測地点  
 出典: H22センサス

- 国道121号は日光国立公園の区域内に位置している。
- 国道121号の周辺は第2種特別地域、第3種特別地域、普通地域の3種類が指定されている。

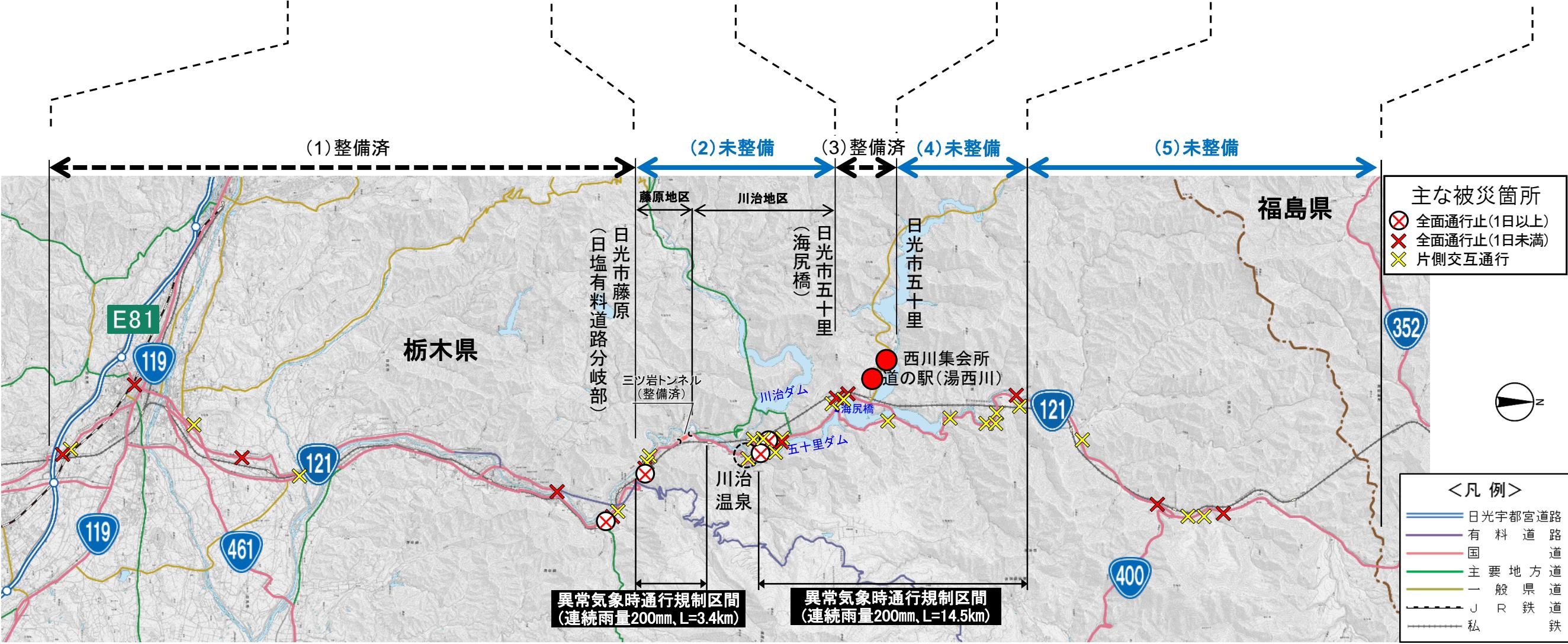


※自然公園法に基づく区分

- 第一種特別地域 : 特別保護地区に準ずる景観を有し、特別地域のうちでは風致を維持する必要性が最も高い地域であって、現在の景観を極力保護することが必要な地域)
- 第二種特別地域 : 第一種特別地域及び第三種特別地域以外の地域であって、特に農林漁業活動についてははつとめて調整を図ることが必要な地域)
- 第三種特別地域 : 特別地域のうちでは風致を維持する必要性が比較的低い地域であって、特に通常の農林漁業活動については原則として風致の維持に影響を及ぼすおそれが少ない地域)
- 普通地域 : 国立公園又は国定公園の区域のうち特別地域及び海城公園地区に含まれない区域)

■ 国道121号は、過去に落石や倒木、土砂流出等に起因する通行規制が発生している。  
 ■ 特に、未整備区間では、平成元年以降の28年間で26回の通行規制が発生。  
 このうち、藤原・川治地区では1日以上の全面通行止めが3回発生している。

区間	(1)整備済区間	(2)未整備区間	(3)整備済区間	(4)未整備区間	(5)未整備区間
災害による通行規制回数	14回(現道7回、BP7回)	<b>12回</b>	5回(現道1回、BP4回)	7回	5回
(うち1日以上全面通行止め回数)	(1回)	<b>(3回)</b>	(0回)	(0回)	(0回)
事前通行規制回数	0回		2回		0回

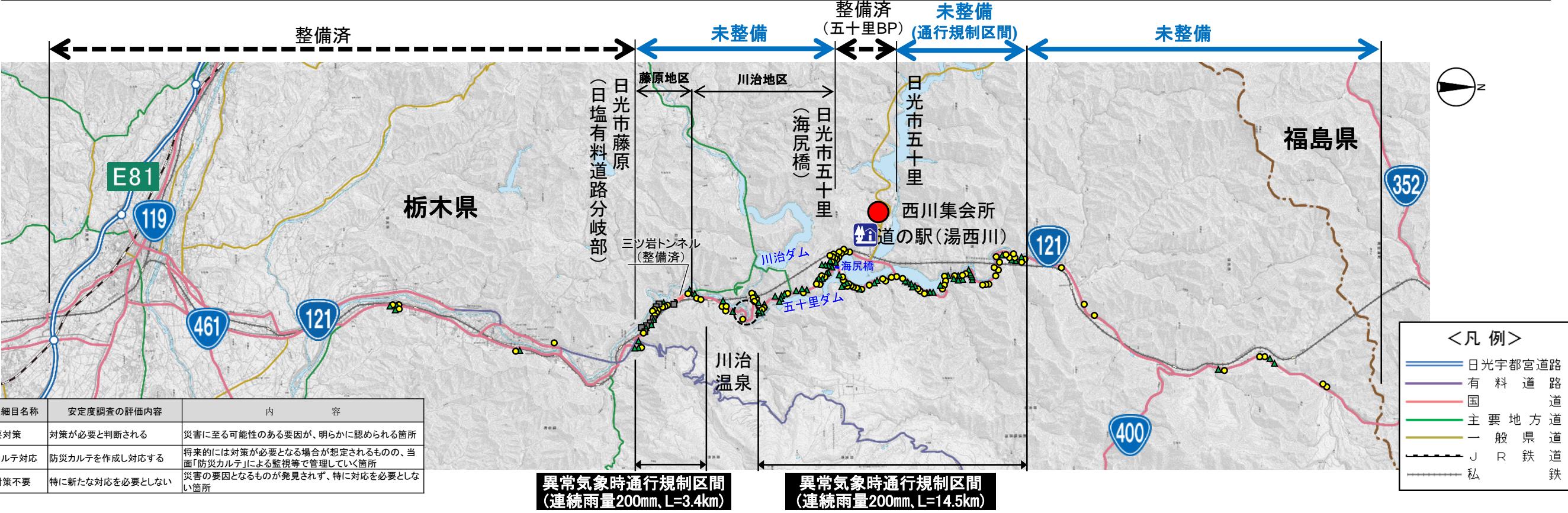






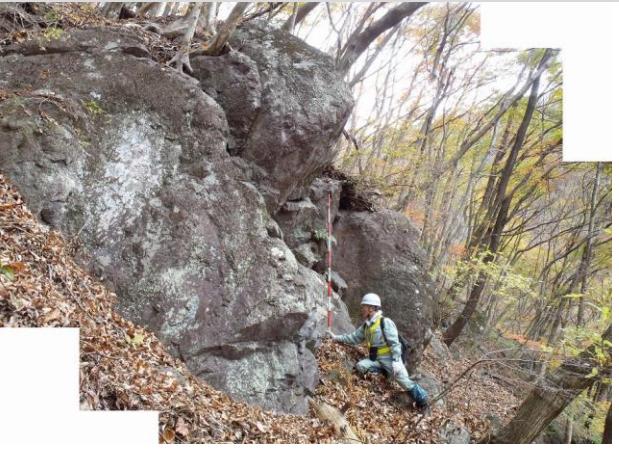
# 【自然災害への脆弱性】防災点検結果

- 国道121号は、塊状の岩盤が急峻な斜面に多く露出している。
- また、岩盤表層は亀裂の開口とこれに伴う緩みの進行により落石・崩壊が発生しやすく、**大規模な岩盤崩壊が発生する可能性を有する箇所が多く存在している。**
- 特に藤原地区、川治地区においては防災点検の結果、災害危険箇所が全体の4割を占めている。



## 地形分類図(詳細)

塊状の岩盤が斜面に露出した箇所 (大規模な岩盤崩壊が発生する可能性があり危険)

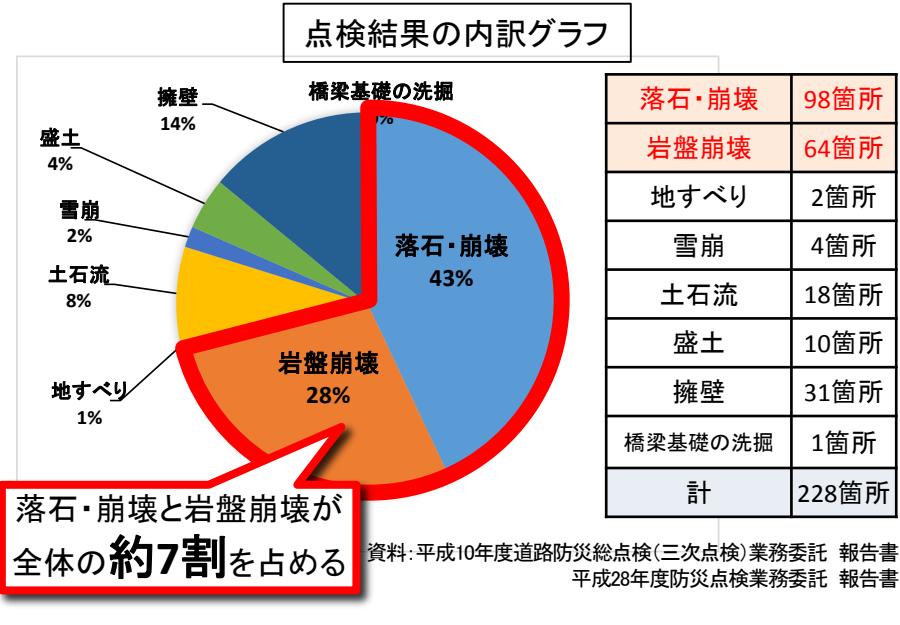


## 防災点検評価結果

区間	整備済	未整備		整備済		未整備		合計
		藤原地区 川治地区	五十里 バイパス	旧道	規制 区間	規制 なし		
要対策	6箇所	27箇所	11箇所	13箇所	29箇所	8箇所	94箇所	
カルテ対応	7箇所	49箇所	7箇所	7箇所	24箇所	4箇所	98箇所	
小計	13箇所	76箇所	18箇所	20箇所	53箇所	12箇所	192箇所	

藤原地区、川治地区における災害危険箇所数は全体の**約4割**を占める

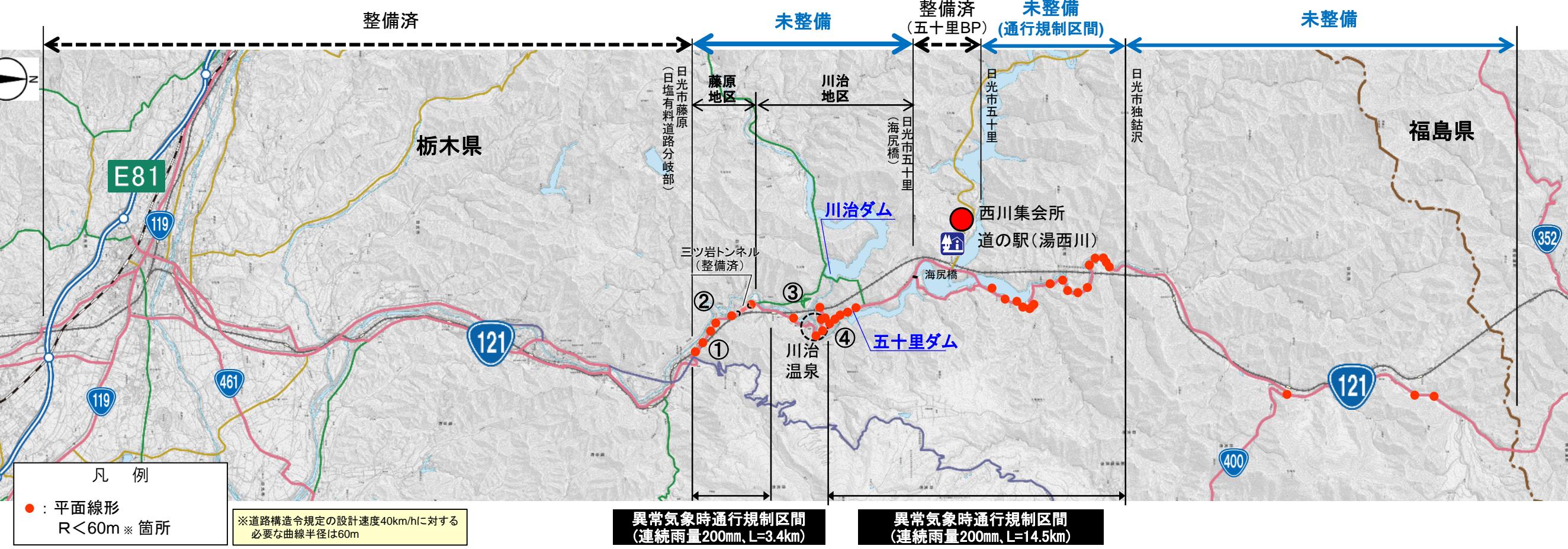
区間	整備済	未整備		整備済		未整備		合計
		藤原地区 川治地区	五十里 バイパス	旧道	規制 区間	規制 なし		
対応不要	0箇所	29箇所	5箇所	0箇所	2箇所	0箇所	36箇所	



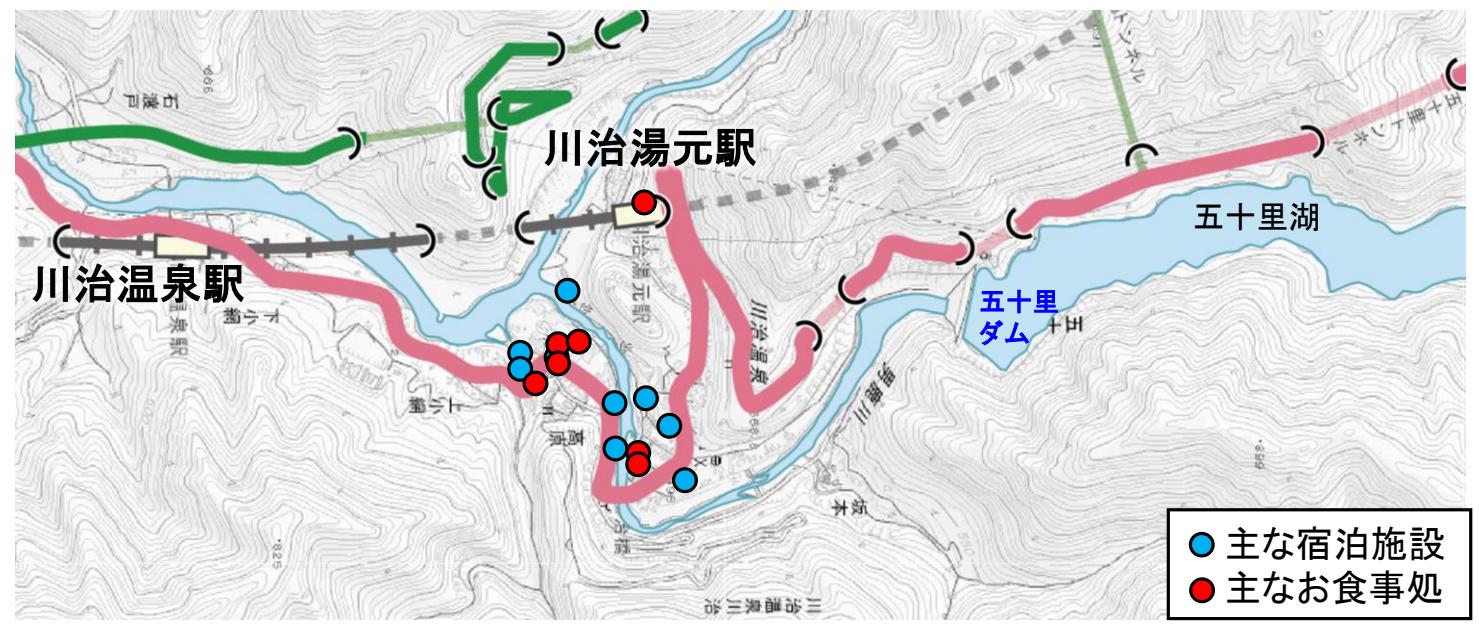
- 国道121号は急カーブ箇所やカーブの連続する箇所が存在し、走行性の確保が課題。
- 特に藤原・川治地区では線形不良及び幅員の狭い箇所が多く存在することから、大型車とのすれ違いが困難である上、冬期は積雪や凍結による速度低下も発生している。



区間		整備済区間	未整備区間 (藤原地区、川治地区)	整備済	未整備区間	未整備区間
現道道路構造	道路幅員(m)	16.0m	6.5~11.2m	9.0m	5.4~10.0m	5.8~12.0m
	平面線形 (R<60m箇所)※	0箇所	<b>38箇所</b>	0箇所	22箇所	3箇所



■ 国道121号沿線の川治温泉街では歩道がなく、大型車が通過する際に歩行者に危険がおよぶなど歩行者の安全性の確保が課題となっている。



## 観光関係者の声



両側ともに歩道がないので、非常に歩きづらいです。  
トレーラー等の大型車が真横を通過するので、非常に怖いです。



観光客

雨の日は、観光客の人が傘を差しながら歩く必要があるので、危険な状況になっています。

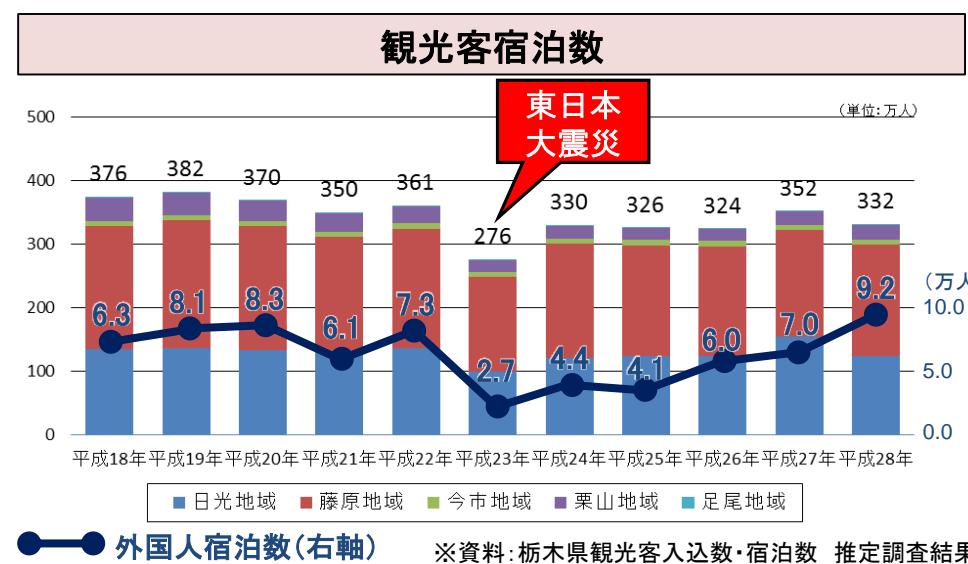
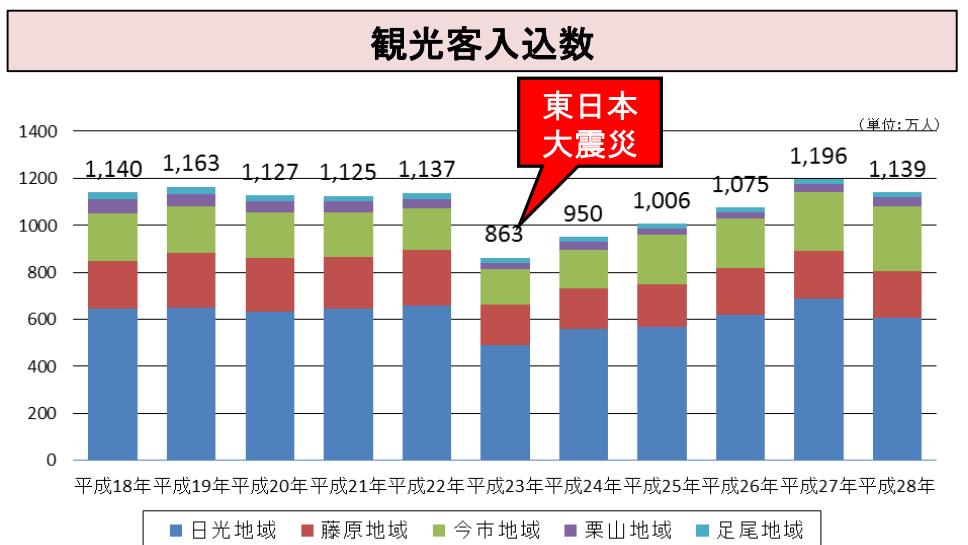


日光市観光関係者の声

# 地域の現状と課題

- ・ 観光の現状と課題 . . . . . 1 2
- ・ 医療施設への速達性の現状と課題 . . . . . 1 3

- 国道121号沿線の日光市は、世界遺産「日光の社寺」をはじめとする歴史価値のある建造物等や温泉、自然(国立公園)を有する、純日本的な地域資源に恵まれた国内有数の観光地である。また、会津地区にも鶴ヶ城や大内宿など江戸時代から保存されてきた歴史的に貴重な建造物があり、観光の拠点となっている。
- 東日本大震災以降、大幅に落ち込んだ観光客数及び宿泊数はある程度回復したが、その後は横ばいが続いているため広域的な周遊や連携も視野に入れて観光の活性化を図る必要がある。



・日光・南会津間の道路整備が進むことによって、豊かな自然や美しい農山村の風景を楽しむお客様が増えるなど、観光面で効果が期待できます。  
 ・現在は、カーブの連続や道幅が狭い区間もあり、運転が心配です。  
 ・国道121号は首都圏と東北の玄関口を結ぶ大切な道路、一日も早い整備を望みます。



南会津町 観光事業者の声

・会津との連携を行っていましたが、集客の効果があまりなかったために、最近は積極的な動きはなくなってしまいました。  
 ・国道121号が整備されれば観光の幅が広がり、福島からの集客や福島との周遊客が増える可能性があります。



日光市 観光関係者の声

